

クリーンルームの増設！

3つの無菌手術室



人工関節センター長
小谷 博信

変形性関節症や関節リウマチで変形・破壊された関節を人工の関節に置き換える人工関節の手術は、高齢の人口層の増加や人工関節自体の発展・進歩により、近年ますます盛んに行われるようになってきました。

人工関節手術によって、関節の痛みはほとんどなくなり、曲がった脚もまっすぐになりますので、画期的な手術となっており、手術によって、より快適な日常生活が送れるようになります。そのため、日本においても、年間の人工関節手術は、膝関節は6万例、股関節は3万例、人工骨頭手術は5万例（いずれも年間の発売数）を越えると推定されています。

今後はまだまだその実施数は増加していくと思われます。

当院では、日本の先駆者的に1973年から人工関節手術にとりくんでおり、年間約400例の人工関節手術を行っていて、当初から現在までに6659例（2010年3月1日現在）の経験があります。

人工関節手術を行う無菌手術室（クリーンルーム）を以前は1室だったのを、手術の増加に伴い、2003年に2室に増設して対応してきました。しかし、今後

さらに手術の増加が見込まれるため、今春3室に増設しました。

また、玉造人工関節センターを2005年10月に開設して、総合的に、より安全に、より充実した人工関節手術とリハビリを行ってきています。その手術やリハビリの技術を全国の医療関係者（医師、ナース、理学療法士など）が研修できるように、センターのラーニングとして受け入れており、すでに100数十人が研修に参加されています。

今後は3つの無菌手術室によってさらに充実した人工関節手術が行えるものと期待できます。



第3無菌手術室（新設）

新たに無菌室を増設しました

当院の無菌手術室（クリーンルーム）は2室から3室になりました。無菌手術室（クラス100）とは空気の汚れを取り除いた部屋のことです。アメリカ航空宇宙局（NASA）が定めた単位でクリーン度を示すものであり、一般の手術室の基準の100倍クリーン度が高く無菌の状態です。手術をおこないます。

整形外科、特に人工関節置換手術では、無菌状態の清潔な環境下で手術をおこない、手術後の感染を防ぐ必要があります。

このたびの増設にて、1日に手術できる患者さまの数を増やすことができます。手術まじの患者さまが少しでも早く手術が受けられ、関節の痛みから解放されて日常の暮らしがらくになってほしいという願いからです。

そして当手術室では、感染防止だけでなく安全の視点から患者確認や手術部位誤認防止に細心の注意を払い行っています。また患者さまが手術室に入ってこられるとき、笑顔でお迎えし、天井壁を空の模様にかえたり、入室されたのちもミュージックで緊張が和らぐように配慮しています。

手術室医療スタッフは、整形外科医

師、麻酔科医師、看護師、レントゲン技師、検査技師などが協力して患者さまの治療・看護をさせていただきます。

これからも患者さまご家族のみなさま方の要望や信頼に応えられるようにしていきたいと思っております。



手術室看護師長
空先江見子



手術室カンファレンスルーム



青空模様の入室室天井

